

シャープダイナ #31

[1] キャビネット上面

2025.1.10

シャープ社友会
ラジオ愛好者同好会
吉田育弘

シャープダイナ #31

AC商用電源動作のいわゆるSGエリミネータラジオ。1-V-2構成の高級機

2025.1.5

吉田



<概況>

- ・銘板は取り外されているが、銘板固定用のハトメ穴は残っている。
- ・本機は#30としてお借りしたが、本機は#30ではなく、#30を改良した#31であると判断している。
- ・本機には、224(RF)-227B(再生?検波)-F109(AF)-12A(AF)、KX112B(整流) の真空管が刺してある。
- ・これは、#31の標準構成：224 227 226 UX-112A KX-112B と同一である一方、#30の標準構成：227 226 226 UX-112A、KX-112A とは異なる。
- ・本機の初段は後年開発された4極管224であり、#30の初段である3極管の227とは互換性はない。よって本機の初段は単に差し替えられたものではなく、当初より224であったと考えられる。
- ・本機の次段227Bは227を改良したものである。
- ・#31は#30後期型と同一外観である。
- ・右のつまみのベースに茶色塗料がついているので、後年に再塗装された可能性がある。これは、#31に設定されていた「ベークの化粧カバー」の色に近い色なのかも知れない。



左のつまみ Tuning compensator と読める



1度刻みの細かい目盛りで高級感を出している



右のつまみ Tickler と読める

つまみ

3つのつまみは木製

各タイモネジひとつで固定されている(写真右端が固く固着していて緩まない)



ダイヤルとそのエスカッション



BHA Metal Works社 Airplane Dial No.1

(2024年1月4日現在ヤフオクに出品されている、
(<https://page.auctions.yahoo.co.jp/jp/auction/k1167697071>)
のエスカッションに、「SHARP」ロゴを追加したものと思われる。

- ・早川金属工業の当時のカタログにも同様の製品がリストされているので、早川が製造供給した可能性もあるが、箱にPatentとある。部品購入して活用した可能性が高い
- ・ダイヤルつまみの位置が異なるので、BHA社製品としてNo.1以外の製品があった可能性はある。



上蓋を開けたところ

- ・全体に、大きな改造は見られず、オリジナルの様態を保っている
- ・右奥から左に、UY-224(シールドケース付) UY-227B、F109、12A、KX112B
- ・12AだけST管で、他はナス管
- ・右手前の2本はコイル
- ・VCにSHARPの刻印とTロゴあり
- ・左端の銀色カバーはトランス
- ・左奥の緑の線はSPへ行く線
ビニール線なので戦後まで使われていた可能性はある
- ・ダイヤル上の豆球は欠品

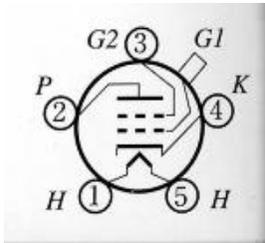




RFアンプ

UY-224 検波増幅用傍熱4極管
1930年に東京電気サイモトン(東芝マツダ)が国産化、発売
本品にもサイモトンの刻印がある。

https://totron.sakura.ne.jp/224_224a_24a_24b_tubes.htm



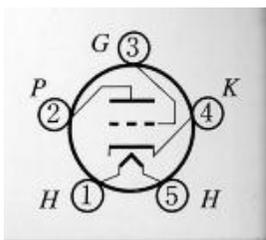
2025.1.20
フィラメントは活着ている！



https://radiomann.sakura.ne.jp/HomePageVT/Radio_tube_1_Tetrode.html

再生?・検波

マツダ UY-227B High- μ 高増幅率3極管



2025.1.20
フィラメントは活着ている！

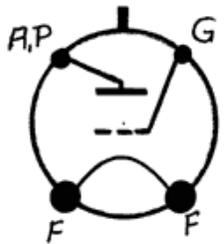




AFアンプ

フィリップス

F109? F109なら226のコンパチ球 (JAでは超珍と思われる)



2025.1.20

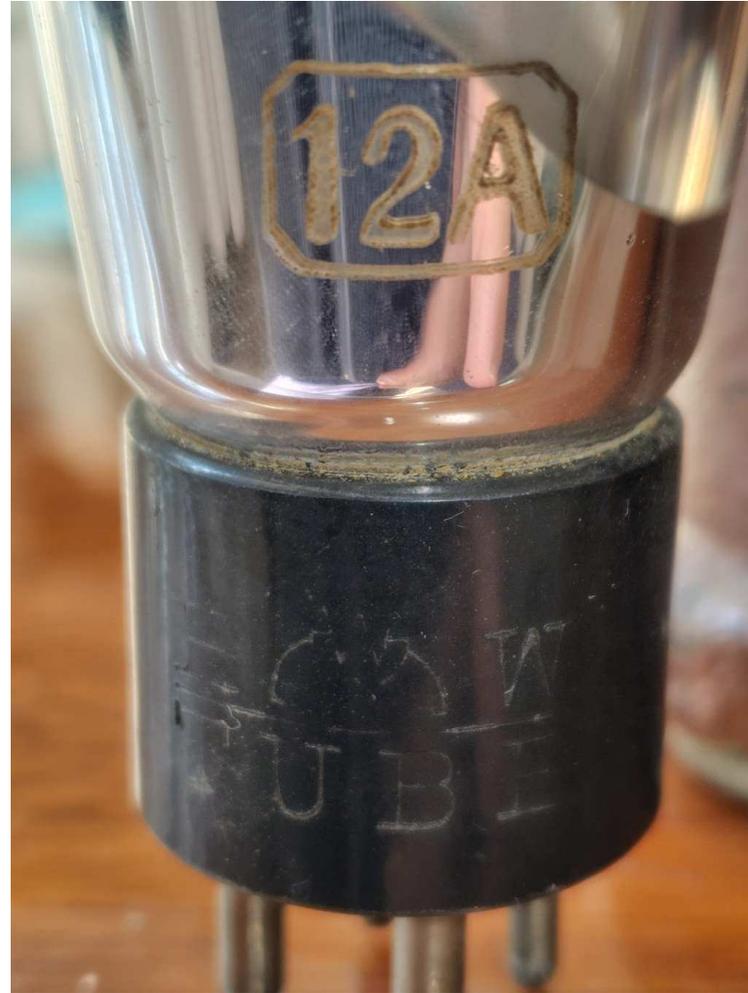
フィラメントは活着ている!



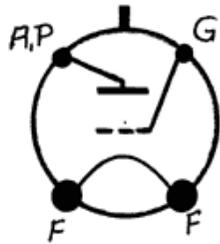
AFアンプ(PA)



12A(ST管) ベースにHW TUBEと刻印



HW真空管社の箱
(UX-26Bのもの)



2025.1.20
フィラメントは活着ている！



半波整流

HOPE真空管
KX-112B 直熱2極管



2025.1.20
フィラメントは活着ている！

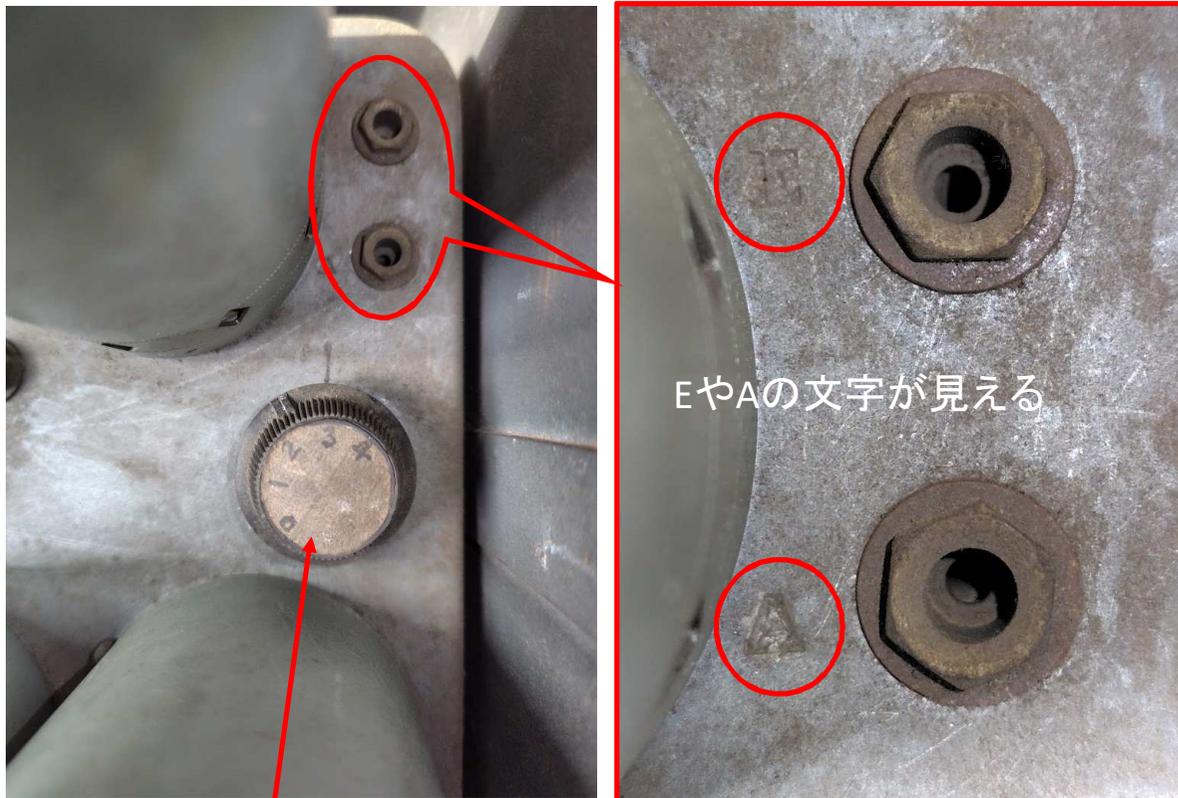
引き出し用の端子

レコードのピックアップ
接続端子

アンテナ端子



当時の高級機は電蓄も
つなげるようになっていた



EやAの文字が見える

アンテナコイルのタップ切り替えスイッチ

スピーカー端子



ターミナルは着色プラスチックが
用いられている。この着色製品は
当時のカタログにも掲載されている。

<http://radiokobo.web.fc2.com/siryou/index.html>

ラジオ工房の資料室